

お元気ですか、先輩

SMB C日興証券グループ健康保険組合には、全国約1400の健保組合の中でも61組合しか実施していない、75歳の誕生日前日まで加入できる制度があります。そこで本誌では、「お元気ですか、先輩」と題し、当健保組合加入の70歳代の先輩に、現役時代の思い出や健康に関する考え方を伺いながら、後輩世代へのアドバイスをいただくコーナーを設けています。第5回となる今回は、日興証券退職後、グループ会社役員などを経て、現在は遠山偕成ホールディングス株式会社顧問に就任、北海道ゴルフクラブにて競技委員長を務められている吉野浩視さんに、趣味のゴルフにまつわるエピソードをはじめ、興味深いお話を伺いました。



Profile
 よしの ひろし
吉野 浩視さん
 ●昭和22年4月生まれ(71歳)
 ●宮崎県出身
 ●家族…妻、息子1人、娘1人、孫3人
 ●趣味…ゴルフ
 ●好きな作家…佐藤優

まずは近況をお聞かせいただけますか？

遠山偕成ホールディングスに勤務しながら、北海道ゴルフクラブで競技委員長をしています。1年で120回くらい(うち、30回くらいは北海道以外)はコースを回っていますので、週に2〜3回はプレーしていることになりました。プロでもここまでプレーしている人はそれほど多くないと思います(笑)。

ゴルフクラブの競技委員長とはどういったことをするのですか？

入会審査をはじめ、会員に継続してもらえようコンペの企画などもします。今は、大学の学長さんやOBなどに声をかけ、「学長杯」などというコンペを企画したりしています。

ゴルフを始められたきっかけは？

学生時代は水泳をやっていた、当時の水泳部の先輩に、「社会人になって急に運動を止めると体が壊れる」と言われました。そこで昭和45年に日興証券に入社後は、毎朝5

時起きでストレッチ運動やランニングをして7時に出社していたのです。

ゴルフというスポーツに関わったのは会社のゴルフコンペが最初で、プレーには参加できなかったのですが、そのとき先輩から3本のクラブをいただいたのが大きなきっかけになりました。毎朝のストレッチ運動を、毎朝150回のゴルフクラブの素振りに変えたのです。

昭和46年、初コンペのスコアは50と61で111でした。その翌年、お客様にプロゴルファーのジャンボ尾崎さんを紹介いただき、福岡のあるゴルフ練習場で尾崎三兄弟と打ち合いをしたことがあります。当時、ドライバーはパーシモン(木製)の時代でしたが、私が何度も300ヤードマークまで飛ばすのを見て、そのたびに後ろから「信じられない…」と言う彼の声が聞こえましたね。彼の師匠にあたる方からも、「(君は)プロになれるね」とお墨付きのような言葉をいただいたこともあり、そのときは真剣にプロゴルファーへの転向を考えたりしました(笑)。

そこまでの努力をしながら、プロにならなかったのはなぜですか？

日興証券からも慰留されましたし、よい先輩にも出会うことができました。営業の仕方もしっかり教えてもらい、新規開拓で顧客も順調に増えていきました。自分のメインはやはり仕事で、ゴルフはアマチュアとして続けていこうと決めたのです。ちなみに日興証券での現役時代は、平日にプレーしたことはない、というのが正直、少し自慢です(笑)。

洗剤とされて70歳代にはとても見えません(笑)。運動のおかげですか？

かつての運動量はむしろオーバーワーク気味でした。日興証券に入社して7年半が経ち、労働組合専従になった頃、右半身が動かしにくくなり、右脚が上がらなくなってしまったんです。大きな病院を片っ端から回り、脳のMRI検査なども受けましたが、どこも悪いところが見つかりません。そんなとき、かかりつけのマッサージの先生に「あ



なたの筋肉は豆腐のようです」と言われました。オーバーワークが原因で、筋肉の弾力性が失われていたのです。この症状は完治まで3年半かかりましたが、「無理は禁物」ということを学び、以来、年齢に応じて運動量を調節しています。

健康に資することでも何か他に留意されていることはありますか？

健診を毎年きちんと受けており、今はどこも悪いところはありません。腸や血管、心臓にもよい先輩に教えてもらったことですが、毎朝、青森の自然薯に納豆、半熟玉子を混ぜて食べる、というのを6年前から続けています。大好きなゴルフを元気で続けていくために、やると決めて一度始めたことはやめないのです(笑)。

ゴルフが本当に好きなのですね。

ゴルフは年をとってからもできると同時に、人の輪が作れるスポーツでもあります。「月一会」と称するゴルフ仲間との飲み会があるのですが、それが今や7つのグループができていて、そうすると「月七会」になるので、いっ

そ全部合同でやりましょう、と。このようにして、人の輪が大きく広がっていくんです。職業や環境が違っても、厳しいルールやマナーを共有できるゴルフ愛好家同士ですから、ゴルフ繋がり付き合いは、相手がゴルフをしている限り切れることはないのです。

当健保組合でも「健康寿命を伸ばし、元気で長生き」が課題ですが、吉野さんはそのお手本のような人生を歩まれています。そんな吉野さんから、ぜひ後輩へのメッセージ、エールをお願いします。

「継続は力なり」ということでしょうか。私はアマチュアゴルファーとして、仕事とゴルフを両立してきたという自負があります。ゴルフは毎日少しずつ同じ時間に、同じ練習を連続して行っていくと、ボールの状態や、その日の

体調、ときには微妙な体の変化に気づくようになる。仕事は複雑な仕事であれば、できるだけ単純化するのがコツ。行程が工夫され、効率的になると、さらに妙案が生まれてくることもあります。

今後の目標、ライフプランなどを教えてください。

自分が40年間ゴルフに取り組んできたこと、北海道ゴルフクラブにきてからのプレー記録などを何らかの形で本に著したいと思っています。サラリーマンの希望になるようなものができたらいいなと思っていますが、元氣な今、書くのがよいのか、それともゴルフができなくなつてから書くのがよいのか。今の過密スケジュールでは、そういう時間はないし、よほよほになつてから書いても誰も読んでくれないかもしれない。それが目下の悩みですね(笑)。

吉野さん、2000年に「ビジネスマンゴルファー日本一」に輝く!

ビジネスマンゴルファー日本一を決める「全日本実業団対抗ゴルフ選手権大会」(現在の名称は「日経カップ企業対抗ゴルフ選手権」)の第12回大会(2000年)において、吉野さんは、スコア75(37、38)で栄えある個人戦優勝を見事に果たしました。



◀表彰式での吉野さん(写真左)



▲吉野さんの美しいスイング(2004年9月、リバー富士CCにて)



◀同大会の結果を伝える新聞記事コピー(赤い傍線箇所注目)